

メアリー・ウェザーフォード Mary Weatherford

1963 年、米国カリフォルニア州オーハイ生まれ

メアリー・ウェザーフォードは、同世代を代表する画家の一人であり、またアメリカ抽象絵画の歴史的系譜に果敢に挑み続ける重要な作家として国際的に高く評価されている。絵画という表現領域を押し広げる一方で、彼女の実践は伝統と向き合いながらも、常に既存の枠組みを更新する試みに貫かれている。

これまで、ウェザーフォードは、大画面のカラーフィールド・ペインティングに対するフェミニズム的再解釈を試みるとともに、風景画というジャンルに新たなあり方を提示し、さらにカリフォルニアという土地が孕む社会的・歴史的記憶を探究してきた。とりわけ 2012 年以降継続して用いているネオン管を含む彫刻的要素の導入は、絵画と彫刻の境界を横断する独自の表現として広く知られている。身体性に満ちた大胆な筆致と発光するネオンを組み合わせることで、彼女は抽象表現を形式的な言語であると同時に、個人的な記憶や経験、そして外部世界との関わりを詩的に表現する手段へと昇華させている。

2020 年から 2021 年には、これまでの活動を概観する展覧会「Canyon-Daisy-Eden」が、ニューヨーク州サラトガスプリングスのフランシス・ヤング・タン教育美術館（Tang Teaching Museum and Art Gallery）およびニューメキシコ州の SITE Santa Fe で開催された。

主な個展に、パラッツォ・グリマーニ美術館（ヴェネツィア、2022 年）、アスペン美術館（2021 年）、マリアン・マイナー・クック・アテナエウム（クレアモント、2014 年）、トッド・マディガン・ギャラリー（ベーカーズフィールド、2012 年）、LAXART（ロサンゼルス、2012 年）などが挙げられる。

また近年の主なグループ展には、「Color is the First Revelation of the World」（オレンジカウンティ美術館、2024 年）、「Making Their Mark」（シャー・ガーク財団、ニューヨーク、2023 年）、「America: Between Dreams and Realities」（ケベック国立美術館、2022 年）、「Aftereffect: Georgia O'Keeffe and Contemporary Painting」（デンバー現代美術館、2019 年）、「Between Two Worlds: Art of California」（サンフランシスコ近代美術館、2017 年）、「The Forever Now: Contemporary Painting in an Atemporal World」（ニューヨーク近代美術館、2014 年）などがある。

ウェザーフォードの作品は、ニューヨーク近代美術館、ホイットニー美術館（ニューヨーク）、ロサンゼルス・カウンティ美術館、サンディエゴ現代美術館、テート美術館（ロンドン）、ブルックリン美術館（ニューヨーク）、K11 Art Foundation（香港）、ロサンゼルス現代美術館などに収蔵されている。2019 年には、作家の活動を包括的に紹介するモノグラフが Lund Humphries より刊行された。

現在、ロサンゼルスを拠点に活動している。